新たな地域医療構想の概要

● 都は、医療法改正により、**2025年を見据えて、主に入院医療を対象とした地域医療構想**に基づき、病床の機能分化・連携を進めてきた

● 今後、85歳以上の増加や生産年齢人口の減少が見込まれる中、**2040年とその先を見据えたあるべき医療提供体制の姿やビジョン**を示すために、**新たな地域医療構想**を策定

策定理由と方向性

① 85歳以上の増加と救急需要等の変化

〇85歳以上を中心に高齢者数は2040年頃まで増加し、**医療・介護の複合ニーズのさらなる高まり**

〇急性期医療の需要は減少する一方、**高齢者救急（特に軽症者）・在宅医療・介護の需要は増加**

〇重症者を確実に受け入れられるよう、今後の需要に応じた**役割分担の明確化が必要**

② 生産年齢人口の減少

〇**医療人材の確保が一層困難**となる中、持続可能な働き方の確保が課題

入院医療（高齢者救急など）、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた、地域における**医療提供体制全体の課題解決を図る**

現構想と新構想の違い

現構想　2025年を見据えた「入院医療・病床機能」を中心とした医療提供体制の構想

新構想　2040年を見据えた「**医療提供体制全体**」の「**将来ビジョン**」を示す構想

新構想で示す主な内容

※**赤字**は新たな項目

〇 **地域の医療提供体制全体の将来のビジョン・方向性**
（入院医療、外来医療・在宅医療、介護との連携、人材確保等）

〇 **将来の医療機関機能の確保のあり方**

〇 **医療機関の機能分化・連携の推進に関する取組**

〇 **将来の病床数・在宅医療の必要量**

〇 **病床の機能分化・連携の推進に関する取組**

感染症医療についても地域医療構想に反映する必要がある

新たな地域医療構想における感染症医療の方向性と目指す姿

感染症医療に関する現在の状況

〇協定締結を通じて、有事に備えた体制整備を推進

〇東京iCDCによる専門的知見の活用や研修・訓練等を通じた人材育成を推進

都の特性を踏まえた取組の方向性（案）

- **感染症危機に機動的に対応できる体制の整備**
  感染症発生時に備え、検査体制及び医療提供体制の確保等を行うとともに、DX等を活用し関係機関等との連携を強化

- **感染症対策に係る人材育成の推進**
  東京iCDCの専門的知見の活用するとともに、
  協定締結医療機関等を対象とした研修など感染症医療人材の育成を推進

2040年の目指す姿（案）



取組の方向性・目指す姿は、東京都感染症予防計画と整合性を図っていく